

今年度も、引き続き男女共同参画へのご理解ご協力をよろしくお願ひします。

男女共同参画推進室では、全学シンポジウム、研究力向上/ワーク・ライフバランスのためのセミナー、女性研究者の裾野拡大の取組のほか、出産・育児・介護等のライフイベント時における研究支援員の配置、保育料の一部補助等を行っています。ご要望やアイデアがありましたら、男女共同参画推進室または各キャンパスの分室まで声をお寄せください。

ごあいさつ -室長 内布敦子（理事兼副学長）



男女共同参画推進室長を担当させていただいて2年目にはいりました。平成29年度中は、各キャンパスでは、セミナーの開催、女性研究者の研究支援や保育支援の事業推進などで推進室の活動を盛り上げていただき感謝しています。平成28年度までJST補助金で平成28年度まで神戸大学、関西学院大学と共同で行ってまいりました「女性研究者研究活動支援事業（連携型）」の最終的な評価はA（Sを期待していたのですが）でした。同時に次の予算獲得のため本学単独で「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ」に申請しましたが、残念ながら選定とはなりません。平成29年度以降は、大学独自資金のみで運営しながら、引き続き適当な補助金等を探索しています。

女性教員比率22.0%、新規採用教員の中の女性割合40.0%、女性の上位職階への昇任率13.3%といった目標はありますが、比率はさておき、現在の女性教員比率を考慮すれば、当座は有能な女性の採用や昇進に置いて「不当な優遇」ではなく「正しく評価される」職場環境が重要となります。そのためには、国の統計でもなかなか増えない男性の家事労働時間をどうしたらふやすことができるか、また、介護や産休、育休をその職場が喜んで受け入れられるような状況をどうしたらつくるか考えることが大切ではないかと思ひます。男性の育児休暇を推進すること、女性でも男性でも介護、産休・育休中の教員がいる部署に対して、欠員をカバーしてがんばっている周辺の教員達を支援すること、など支援のターゲットを変えてみるのも一つの方法です。さまざまなライフイベントを抱えながら働き続けることを支援することこそ男女共同参画推進の目的ではないかと思ひます。

▶男女共同参画推進室・分室室員

推進室	室長	内布 敦子:副学長	姫路工学	推進員	井上 尚三:工学研究科
	副室長	三浦 永理:工学研究科		支援員	前田 智子:総務課
	室長補佐	藤原 祥隆:教育企画部	播磨理学	推進員	廣瀬 富美子:生命理学研究科
		横山 由紀子:経営学部		推進員	兼安 洋乃:物質理学研究科
		吉田 秀郎:生命理学研究科	支援員	西村 依子:総務課	
		吉村 美紀:環境人間学部	姫路環境	推進員	吉村 美紀:環境人間学部
	池田 雅則:看護学部	支援員		吉田 日出美:総務課	
	課長	安田 寛治:教育改革課	明石看護	推進員	金 外淑:看護学部
		井上 博尊:総務人事課		支援員	富士原 功子:総務課
		藤田 博之:産学連携・研究支援課	神戸情報	推進員	石垣 恭子:応用情報科学研究科
コーディネーター	土岐 智賀子:男女共同参画推進室	推進員		永野 康行:シミュレーション学研究科	
支援員	横山 富子:男女共同参画推進室	支援員		渡辺 由美子:総務課	
神戸商科	推進員	石黒 靖子:経済学部	淡路緑景観	推進員	豊田 正博:緑環境景観マネジメント研究科
	支援員	渋谷 裕子:総務課	豊岡	推進員	中井 淳史:地域資源マネジメント研究科
			神戸防災	推進員	馬場 美智子:減災復興政策研究科



兵庫県立大学男女共同参画推進室

平成27-29年度 3年間の主な取り組みと実績

本学は平成25年に文部科学省女性研究者研究活動支援事業(一般型)に、また平成26年には女性研究者研究活動支援事業(連携型)に採択され、女性研究者の活動を全学的に支援してきました。

女性研究者研究活動支援システム

実験・データ解析等の補助を行う研究支援員を、育児・出産・看護・介護等ライフイベント中の女性研究者(配偶者が大学等の研究者である男性研究者を含む)に配置することで、女性研究者の研究活動の継続と進展を支援してきました。

研究支援員は学部生や大学院生、ポストドクター等がつとめ、専門性などに基づいて配置しました。



	平成27年度	平成28年度	平成29年度
利用者数	13名 (内訳) 妊娠 1名 育児 11名 介護 1名	15名 (内訳) 妊娠 0名 育児 13名 介護 2名	14名 (内訳) 妊娠 1名 育児 12名 介護 1名
研究支援員数	24名	25名	23名

女性研究者に係る保育支援

子育て中の女性研究者(配偶者が大学等の研究者である男性研究者を含む)を支援するため、夜間(延長)保育、休日保育、病児・病後児保育の利用料を補助する保育支援をおこないました。

支援内容

- ・夜間(延長)保育、休日保育は月5,000円を上限に補助
- ・病児・病後児保育は1回あたり2,000円を補助

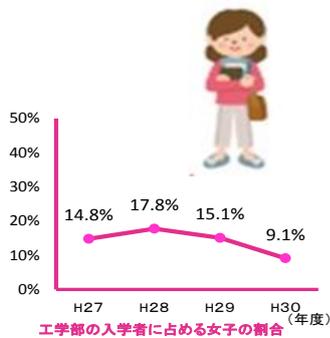


	平成27年度	平成28年度	平成29年度
夜間(延長)保育 休日保育 利用者数	3名	3名	5名
病児・病後児保育 利用者数	3名	1名	2名
学童保育 利用者数	5名	1名	制度廃止

女子学生比率の向上

女性研究者の裾野拡大のため、女子学生比率が特に低い工学部では、高大連携シンポジウム、女子高生と保護者対象の進学案内会などを開催して女子受験生の増加を図っています。

平成27~29年度の女子の工学部入学者数は15%前後を推移しておりましたが、今年度は10%を割り込んでしまいました。今後一層若い世代に理工学系のキャリアの魅力を発信し、伝えていくことが課題となっています。



女性教員比率の向上

多様で優れた教育、研究、社会貢献活動を促進するため、本学の中期計画(H25~H30)では女性教員在職比率の目標値を22.5%(平成30年度)に定め、取り組んでいます。平成24年の20%から平成27年(5月1日時点)には21.4%、平成30年(5月1日時点)では22.2%となり、目標達成まであとわずかとなっています。

しかし工学部3.2%、理学部9.8%など工学・理学系の女性教員比率は依然として低く、これらの分野の女性採用比率の向上は今後の課題です。

